



岡田康博文化庁文化財部記念物課調査官現地指導風景
A地区谷丁場跡の視察と調査方法協議



兵庫県文化財保護審議会史跡・埋蔵文化財部会委員（石野博信氏、寺澤知子氏、和田晴吾氏）現地視察



芦屋市文化財保護審議会委員（村川行弘氏、多淵敏樹氏、神木哲男氏）現地視察



日本考古学協会埋蔵文化財対策委員会現地視察
（鈴木重治氏、百瀬正恒氏、中村博司氏）プレス発表



研究者・研究団体による現地見学校討会
（渡辺武氏元大阪城天守閣館長による大坂城の説明）



研究者・研究団体による検討会（村川行弘芦屋市文化財保護審議会委員による奥山刻印群発見時の説明）



兵庫県教育委員会文化財行政室（平田博幸主査）来訪、
調査方法・調査進行工程協議



調査終了立会風景（ウエスト・ハウス株式会社中井課長、高島社会教育部長、西川文化財課長） 91～93号石材付近



現地説明会風景 (平成 16 年 7 月 4 日)
A 地区谷丁場跡付近 市民延 280 名参加



フランス考古学者ロラン・ネスプルス氏
(ソルボンヌ大学、大阪大学留学生) 来掘



研究者・研究団体への説明風景 (B地区 87 号石材付近)



城郭研究者・研究団体との現地見学検討風景
(平成 16 年 6 月 30 日)



研究者・研究団体への現地見学検討会・説明風景
(A 地区谷 1 左岸より)



奥田尚氏による六甲花崗岩石材専門調査風景
(3号石材付近)



千葉県東邦高等学校考古学部来跡風景



千葉県東邦高等学校考古学部並びに顧問山岸良二氏
(中央) と奥田尚氏 (左端)



**本格的な造成工事に入った発掘調査現場
(2005年5月)**

岩ヶ平の台地最縁部に所在した徳川大坂城の石切丁場跡は、64区画の宅地を造成する工事が進捗し、景観が変わりつつある。事業者並びに工事関係者が細心の注意を払って保存予定石材の保護を図りつつ造成工事を進めている。



**事業者の協力と努力によりひき上げられた
主要保存石材**

宅地造成の事業者の多大な努力によって、工事と並行して重要な歴史資料と考えられたおよそ400年前の加工石材（徳川大坂城築城石）は慎重に遺跡現場から運びあげられ、事業地内で仮保管された。10tを超える石材も存在した。



**工事現場に仮置きされた93号石材
(近景)**

テラス面造成型の石切丁場でみつかった一連の石材はすべて移送され、工事現場の片隅で仮保管された。写真は、長さ2.4mの92号石材を横からながめる。Aタイプの矢穴列痕が2辺に確認できる。加工が進めば、調整石（精加工石材）になるべき大きさと形態を保っている。

付章 岩ヶ平石切丁場跡の石材の石種

奈良県立橿原考古学研究所共同研究員・大阪市立大学大学院 奥田 尚

岩ヶ平丁場跡の穴が残る石材等の石種の特徴について述べる。石材の特徴については裸眼による観察で、他地で使用されている石材とも比較できるような方法をできる限り考慮した。しかし、表面観察であり、長石は自然面では灰白色でも、断面では桃色を呈するものも多く、断面での観察による比較が望まれる。

観察できた石種は石英斑岩・花崗斑岩A・花崗斑岩B・アブライト質黒雲母花崗岩・黒雲母花崗岩A・黒雲母花崗岩B・黒雲母花崗岩C・黒雲母花崗岩D・黒雲母花崗岩Eである。これらの石種の特徴について述べる。

石英斑岩:(53号石の1m西の長径1.5mの石)色は灰色である。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が2~10mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が2~8mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1~2mm、量が僅かである。石基はやや粒状でガラス質である。

花崗斑岩A:(93号石)色は淡桃灰色である。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が1~8mm、量が多い。長石は桃色、粒径が1~8mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1~3mm、量が僅かである。石基はやや粒状である。

花崗斑岩B:(57号石)色は淡桃灰色で、晶洞が散在する。晶洞は不定形で、長径が1~3cmである。内部に長石や水晶がみられる。基質には石英・長石・黒雲母がほぼ噛み合ったようにみられる。石英は無色透明、粒径が1~2mm、量が中である。長石は桃色と灰白色のものがある。桃色の長石は粒径が1~2mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が2~4mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1~2mm、量が僅かである。石基はガラス質で、非常に少ない。

アブライト質黒雲母花崗岩:色は灰白色である。石英が球状で、目立つ。石英は無色透明、粒径が2~8mm、量が多い。長石は灰白色と桃色のものがある。桃色の長石は粒径が2~10mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が2~8mm、量が僅かである。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1~3mm、量が僅かである。

黒雲母花崗岩A:(61号石)色は淡桃色である。石英はやや粒状である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2~8mm、量が多い。長石は灰白色と桃色のものがある。桃色の長石は粒径が3~10mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が4~8mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が2~4mm、量が中である。

黒雲母花崗岩B:(3号石)色は淡桃色を呈する。不定形で、3~6mmの晶洞がみられる。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒状で、粒径が3~8mm、量が多い。長石は灰白色と桃色のものがある。桃色の長石は粒径が3~8mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が2~5mm、量が僅かである。黒雲母は黒色、板状で、粒径が2~6mm、量が僅かである。

黒雲母花崗岩C:(45号石)色は淡桃灰色で、晶洞がある。晶洞は不定形で、長径が2~6mmである。内部に長石や水晶がみられる。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が2~10mm、量が多い。長石は桃色と灰白色のものがある。桃色の長石は粒径が3~15mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が3~8mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が2~3mm、量が僅かである。

黒雲母花崗岩D:(82号石)色は桃色である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒状で、粒径が3~8mm、量が多い。長石は灰白色と桃色のものがある。桃色の長石は粒径が5~15mm、量が多い。灰白色の長石は粒径が3~10mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1~4mm、量が僅かである。

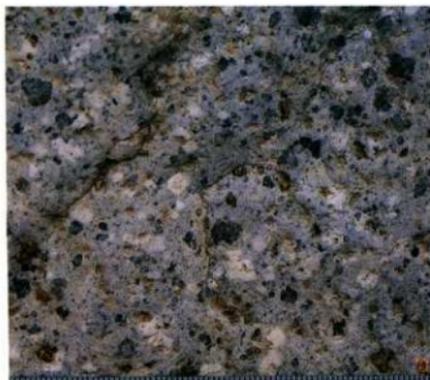
黒雲母花崗岩E:(48号石)色は淡桃色である。風化面での長石は白色となる。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒状で、粒径が2~10mm、量が中である。長石は灰白色と桃色のものがある。桃色の長石は粒径が2~10mm、量が非常に多い。灰白色の長石は粒径が2~3mm、量が僅かである。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が2~4mm、量が僅かである。

石の識別に関して(参考)

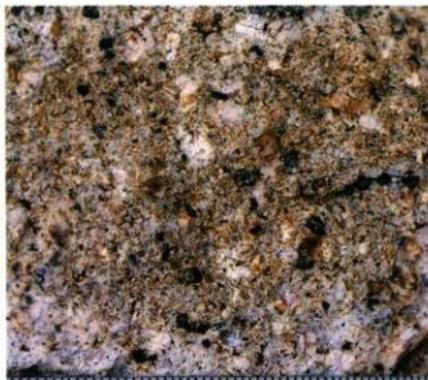
鉱物粒が散在かやや噛み合っているか噛み合っているか

散在する	鉱物種が石英、長石、雲母・・・	石基がガラス質	石英斑岩
やや噛み合っている	鉱物粒には細かいものから粗いものまである		
	鉱物種が石英、長石、雲母・・・	石基がやや粒状	花崗斑岩A
		石基が殆どみられない	花崗斑岩B
噛み合っている	鉱物種には粒径と量、形により特徴がある		
	鉱物種が石英、長石、黒雲母・・・	粒が粗い	黒雲母花崗岩D
		黒雲母が比較的多い	黒雲母花崗岩A
		黒雲母が比較的少ない	

各地でみられるタイプは黒雲母花崗岩D、黒雲母花崗岩E、黒雲母花崗岩Aである。希に黒雲母花崗岩Bや黒雲母花崗岩Cもみられる。晶洞があるものは、穴があいたようにみられるので使用されなかったのであろうか。



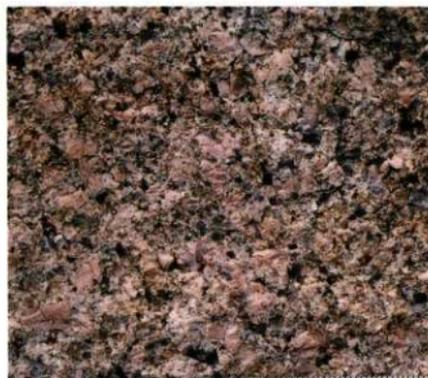
石英斑岩 (83号石)



花崗斑岩 A (93号石)



花崗斑岩 B (57号石)



黒雲母花崗岩 B (3号石)



黒雲母花崗岩 D (82号石)



黒雲母花崗岩 A (61号石)

スケールの1単位は、ミリメートルを表す。

あとがき

端から端までなかなか辿り着けない起伏の多い広大な事業地、2004年5月のゴールデンウィーク明けから開始された6ヶ月にわたる長期間の発掘調査。それが終了し、晩秋の兆しを見え始めた頃には、関節炎や足腰に神経圧迫の加わる体調の悪さを迎える程に体力も衰え、精神力も低下していた。そんな弱気を書く程に、この発掘調査は毎日毎日が実に多難であった。それが貫徹できたのは、調査前に予想していたとおり、この遺跡が石切丁跡跡となって各所で姿を現し始めたことと、その重要性に気づいた多くの研究者、市民、行政関係者が発掘現場を訪れ、私たちに励ましの言葉と調査の意義を強く残していかれたことのお陰であると言っても過言ではない。

遺跡の保護と活用、事業地における工事の円滑化をめくって、末端行政をつかさどる芦屋市から兵庫県、文化庁までの文化財保護行政機関、発掘調査・整理の経費から報告書の刊行、文化財の移設保存まで資金繰りに苦慮された事業者、文化的財産と学術上の価値を広く国民の立場で問い、遺構の保全に万全を期するよう求めた全国の多くの学会・研究団体、保存団体（日本考古学協会・大阪歴史学会・文化財保存全国協議会・関西文化財保存協議会）、芦屋市民が今何在しているかを切実に訴えられた地元住民を中心とする徳川大坂城東六甲探石場遺跡の保存を求める市民の会など、これほど多くの人びと・機関・団体が芦屋市の遺跡調査の成り行きを見守ったことはこれまで全くなかったことであり、調査の日々が緊張の中、経過したことを今思い起こしている。

本書を執筆・報告するにあたって、関連する全国の石切丁場のうち、いくつかを探訪した。休暇・祭日を利用しての動きであり、全く不十分ではあるが、5月には小豆島東岸や北岸の石切丁場を訪れ、矢穴のみられる石材の態様を比較した。これは徳川氏大坂城の瀬戸内海島嶼部における一大採掘場であり、2度目の踏査で有意義であった。北垣聰一郎氏や山上雅弘氏も同行され、貴重なご意見、ご教示を受けながらの遺跡踏査であった。また、冬場の2月には金沢城の築城と関連する戸室山の石切丁跡跡の発掘調査状況や分布調査状況を調査指導した。石川県教育委員会文化財保護課からの依頼であったが、花崗岩とは全く異なった質の安山岩の石材を多数発見することができ、表六甲の花崗岩の場合と技術的差違を比べることに意味を感じた。この時には、深雪寒冷の中、金沢城郭研究室の田嶋明人氏、富田和気夫氏、加藤克郎氏に大変お世話になった。さらに8月には、地元芦の芽グループの藤川祐作氏ののご案内で神戸市灘区・東灘区の六甲山地山麓部や扇状地上の神社や墓地に存在するAタイプに先行する古い矢穴の数々を突き出し、その実態把握と両者の関係性の有無について、イメージをもつことができるようになった。近々では、9月に宮内庁所蔵遺物の鑑定依頼で上京し、同行書陵部陵墓課陵墓調査室の方々に皇居内江戸城の天守台や堀の高石垣の主要部を拝見させていただいた。これらの見聞は、すべて本書の中で生かされている。現地と比較調査がまだまだ必要であるが、静岡県伊豆半島伊東周辺の江戸城関連石切丁場（安山岩）などは未だ現地を探索し得ていない。

報告書の刊行は、先行する他の遺跡の報告書作成事業数冊と重なり、2005年6月の中旬からようやく本格化した。資料整理から公刊に至るまでには、事業者のウエスト・ハウス株式会社から事業費を含め絶大な協力があった。再三再四に及ぶ調査協議、保存協議では、同社の中井課長に随分と精神的負担をおかけした。また、整理補助員の方々には短時間で膨大な作業工程をこなしていただいた。仲谷由利子、高橋美代子、山本麻理、天羽育子、楠貴大のメンバーが主に従事した。また、春木和子さんと国政恭子さんにもご尽力願った。この間、城郭関係の研究会や検討会で多くのの方々からさまざまなご意見、ご教示を賜った。紙面をお借りして感謝の意を表したい。

調査から本書が成り立つまでには、例言に記した多くの機関、方々のご助言やご協力があつた。とくに村川行弘・石野博信・伊井孝雄・野野 豊・勇 正広・石部正志・鈴木重治・佐久間貴士・川口宏海・北垣聡一郎・藤川祐作・梅原章一・黒田慶一・福岡澄男・瀧江田佳男・山本徹男の各氏には、芦屋市の調査ということもあって、格段のアドバイス・資料提供・写真撮影・ビデオ撮影の各方面で献身的な援助があつたことを申し添えておきたい。

発掘調査が終わって1年弱、本書の作成を開始して3ヶ月半、またたく間に月日が経ってしまった。遺跡の質に応じた報告書は、時間と努力不足によりとうてい成し得なかつたが、末筆ながら、関係者各位と事業者にいま一度、深く感謝の念を表して謝筆したい。

(森岡秀人・坂田典彦)

報 告 書 抄 録

ふりがな	とくがわおおさかじょうひがしろっこうさいせきば いわがひらいしきりちようばあと							
書名	徳川大坂城東六甲採石場Ⅳ 岩ヶ平石切丁場跡							
副書名	芦屋市岩園町宅地造成工事に伴う埋蔵文化財事前発掘調査の記録と成果							
シリーズ名	芦屋市文化財調査報告							
シリーズ番号	第60集							
編著者名	森岡秀人 坂田典彦							
編集機関	芦屋市教育委員会 生涯学習課（文化財担当）							
所在地	〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号 TEL 0797-31-9066							
発行年月日	2005年（平成17年）9月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号					
徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平刻印群	兵庫県芦屋市岩園町	28206	TGⅣ	34度45分17秒	135度18分28秒	2004年 5月6日 10月29日	(敷地27,833㎡) 発掘調査2,540㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
徳川大坂城東六甲採石場岩ヶ平石切丁場跡	生産遺跡 採石場跡	江戸時代 明治時代	石材採掘坑 石切丁場跡（刻印石・割石・矢穴石） 石叢道 か跡・焼土坑・配石溝		石器 弥生土器 土師器 須恵器 瓦器 陶器 磁器 木製品 銭貨		刻印石5石とさまざまなタイプの石切丁場跡が江戸時代初期の様相を保って広域に検出された。岩ヶ平刻印群南端部における採石活動を証すことができた。	

◆表紙写真（梅原幸一氏撮影）、裏表紙写真（森岡・坂田撮影）・「鳥」刻印拓影ネガ（高橋・山本撮影）

芦屋市文化財調査報告 第60集

徳川大坂城東六甲採石場Ⅳ

岩ヶ平石切丁場跡

— 芦屋市岩園町、宅地造成工事に伴う
埋蔵文化財事前発掘調査の記録と成果 —

印刷発行 平成17年（2005）9月30日

発行者 芦屋市教育委員会 社会教育部生涯学習課（文化財担当）
〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-31-9066

編集者 芦屋市教育委員会 社会教育部生涯学習課（文化財担当）
〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-31-9066

印刷 ウニスガ印刷株式会社
〒677-0054 兵庫県西脇市野村町大坪471
TEL 0795-22-3226

Ashiya Archaeological Record 60



2005.9

Ashiya City Board of Education, Japan